

## 「新定時制単独高校の創設に向けたまとめ」

### I はじめに

- 伏見工業高校と西京高校の夜間定時制では、勤労青年の就学機会を提供する場としての役割が薄れ、一方で不登校経験がある生徒や特別な支援が必要な生徒など、多様な学びの動機や学習歴を有する生徒が増加。
- 教育委員会は、伏見工業高校夜間定時制からの要望や定時制高校の現状・課題を踏まえ、市立定時制単独高校の創設に向けた基本方針を平成26年7月に決定。
- 両校の管理職や教職員と教育委員会の職員で構成するプロジェクトを同年10月に設置、学識経験者や中学校現場等の参画も得ながら議論を展開。
- また、市民意見募集でいただいた御意見からは新設校に対する大きな期待が寄せられており、そうした御意見及びプロジェクトにおける議論を集約した「まとめ」を基に、新設校のあり方の更なる具体化を図っていく。

### II 市立定時制高校の現状と課題

#### (1) 生徒の状況

- ・中学校時代に不登校経験のある生徒は入学者のおよそ5～6割程度、発達障害等による特別な支援を必要とする生徒も在籍者の1～2割程度と様々な背景や困りを持つ生徒が在籍。
- ・経済的理由はもとより、生活習慣の確立を図る意味で学校の指導の下、およそ7～8割程度の生徒がアルバイトを行い、伏見工業高校夜間定時制ではほぼ全員が就職、西京高校夜間定時制ではおよそ4割の生徒が進学、1割の生徒が就職。

#### (2) 学校を取り巻く状況

- ・伏見工業高校夜間定時制は工業の専門学科で単位制の「工業技術科」、西京高校夜間定時制は学年制の「普通科」を設置し、1学年あたりそれぞれ30名と50名を募集。
- ・少人数教育によるきめ細かい指導を行うとともに、工業系や情報・商業系の資格取得も促進。
- ・西京高校夜間定時制は専用校舎を有し、伏見工業高校夜間定時制は工業高校再編・統合に伴って、平成29年4月以降に校舎等を単独使用できる状況。
- ・両校では教職員の平均年齢は高く、今後は若手教員をはじめ、幅広い年齢層の教員を配置するとともに、総合育成支援教育の充実に向け、総合支援学校と人事交流を行うなど「熱意と意欲を持った教職員」を配置し、学校組織を活性化させることが必要。

### III 新設校の基本的な枠組み

#### (1) 求められる役割

従来の両校が保障してきたように、不登校を経験したり、発達障害等により特別な支援を必要とするなど、もう一度学び直したいと思う生徒、小さな集団の中であれば学校生活を送ることができる生徒、家庭の経済状況などの理由でアルバイトをしながら勉強をしたい生徒のニーズに応えていくことが必要。

#### (2) 新たな教育ニーズへの対応

- ・全国的に公立高校として「引きこもり傾向」にある生徒の教育保障が不十分。
- ・従来の公立高校にはない、ICT環境を活用した学習支援なども視野に入れた新しいタイプの通信制の併設などについて、今後、その実施方法や通学圏も含めた検討を進めていく。
- ・不登校の中学生を対象とした洛風中学校や洛友中学校の生徒の進路保障に向けた連携・接続のあり方もこの機会に検討する。
- ・生徒の進路に対する意欲を高めるための教育相談を中学校と新設校間で複数回実施するようなシステムなど、従来の公立高校入学者選抜の制度の枠を越える新しい選考方法も検討。

### (3) 学習保障に向けた少人数教育、きめ細かい指導のあり方

- ・現在の両校の実情では15～20名程度の少人数の講座が理想的。学力差が大きな科目や実習系科目は1講座10名以下で展開することが必要となる場面があることも考慮し、新設校の指導体制を検討することが必要。
- ・ただし、生徒が社会生活を円滑に送れるよう、集団規模を適宜見直していくことが重要。
- ・新設校では伏見工業高校夜間定時制が国の指定で研究している「個別の指導計画」をすべての生徒に積極的に活用していくことが重要。
- ・伏見工業高校夜間定時制に現在配置する総合育成支援教育に関するアドバイザーやスクールカウンセラーといった専門職員の配置をより充実させることが重要。

### (4) 時間帯のあり方

- ・中学校現場の声や今春開校した「府立清明高校」の定員を大きく上回る志願状況を見ても、本来的に昼間に学びたいという生徒たちのニーズは極めて高い。
- ・経済的な理由や心理面の不安など、生徒たちがアルバイトと両立しながら夜間定時制へ通学・卒業していることも考慮し、夜間に学習保障を行うシステムは維持することが必要。
- ・昼間や夜間に学ぶ生徒たちの定員規模や実際の授業時間帯は、引き続き両校及び教育委員会で具体的な検討を継続する。

### (5) 修業年限や単位認定等のあり方

- ・新設校の昼間に学ぶ生徒たちは3年制を基本に、ゆっくりと学びを求める生徒は4年制も選択可、夜間に学ぶ生徒たちは4年制を基本に希望があれば3年で卒業を選択可とすることが望ましい。
- ・また、定時制で学ぶ生徒たちにホームルームを意識させたり、人間関係を構築して連帯感を持たせるなどの観点から学年制が望ましいが、多様なニーズに対応するため、単位制の活用も検討。

### (6) 外部の教育力も視野に入れたキャリア教育のあり方

- ・両校の従来の取組を踏まえた場合、新設校においても工業・商業・情報等の専門性の高い科目を教育課程に取り込むとともに、資格取得やアルバイトについては生徒のキャリア意識の向上のために取組を継承していくことが必要。
- ・新設校においては多様化する生徒たちの卒業後の支援体制も視野に入れて、これまで以上に様々な関係機関と連携を強化し、力を合わせていくことが重要。

## IV 学校規模や教育施設のあり方

- 新設校の学級規模は、生徒たちの学習保障をしっかりと行うための環境としては20人学級を標準とすることが理想的。
- 体育祭・文化祭、球技大会の学校行事や部活動など、集団生活の素晴らしさを学べる学校規模の確保と環境づくりを重視していくことも大切な視点。そのため、新設校でも充実した教育活動を展開するため、一定数の集団を確保することが必要。
- 新設校は、時間的・空間的に必要な時に校舎や施設を自由に使用できる環境が用意されることを前提に、十分なカウンセラールームの確保、資格取得の学習のために必要となる教室、さらには生徒と教員のオンデマンドシステムを前提としたICT環境の整備等が求められるなど、従来の全日制高校とは異なる視点から教育施設の整備が必要。

## V むすびに

この「まとめ」は新設校の教育構想の骨格であり、今後これを指針として学校現場と教育委員会が一体となり、「この学校で学べてよかった」「この学校があつてよかった」と実感できる新設校を実現するためにさらなる具体化を図っていく。

とりわけ市民意見募集では、両校が培ってきた教育活動や機能を結集し、更なる充実を早期に図ることが求められるとともに、生徒数減少や財政負担の観点など、両校の再編・統合についても御意見をいただいております。市立定時制高校全体のあり方について今後、検討を進めることが重要。